

## Ⅱ 賑わう「都」をつくる 5 観光奈良の魅力向上・発信 (35) 奈良インバウンド観光戦略20年ビジョンの策定と実行

**これまでは**

インバウンドの波が日本に押し寄せていますが、奈良県はその波をエネルギーとして観光振興を図る戦略を持ち合わせていませんでした。リニア中央新幹線が奈良市付近を通る20年後を見据えたビジョンの策定に取り組んできました。

インバウンド獲得は地域間の競争です。あらゆる観光魅力が整った観光地づくりが必要です。

宿泊施設の質と量 (Accommodation)	滞在環境の快適性 (Amenity)
食の魅力 (Appetite)	便利な交通体系 (Access)
抜きん出た魅力 (Attraction)	楽しませる (Amusement)
魅力ある買い物環境 (Achat)	魅力に実力があれば宣伝はあまり必要ありません。来訪者自身が良い評判を上げてくれます。 (身替りピーターの創出)

「泊まる奈良」(滞在型観光の実現)、「巡る奈良」(移動・周遊環境の充実)、「活かす奈良」(豊かな観光資源の活用)のためあらゆる努力をしてきました。

**もっと良くするために**

奈良インバウンド観光戦略20年ビジョンの第Ⅰ期計画(～2024)を策定し実行します。

県全域の戦略	県戦略会議
地域ごとの戦略	各地域戦略会議

県戦略会議のフォローアップ、地域戦略会議の立ち上げ、戦略策定支援

連携

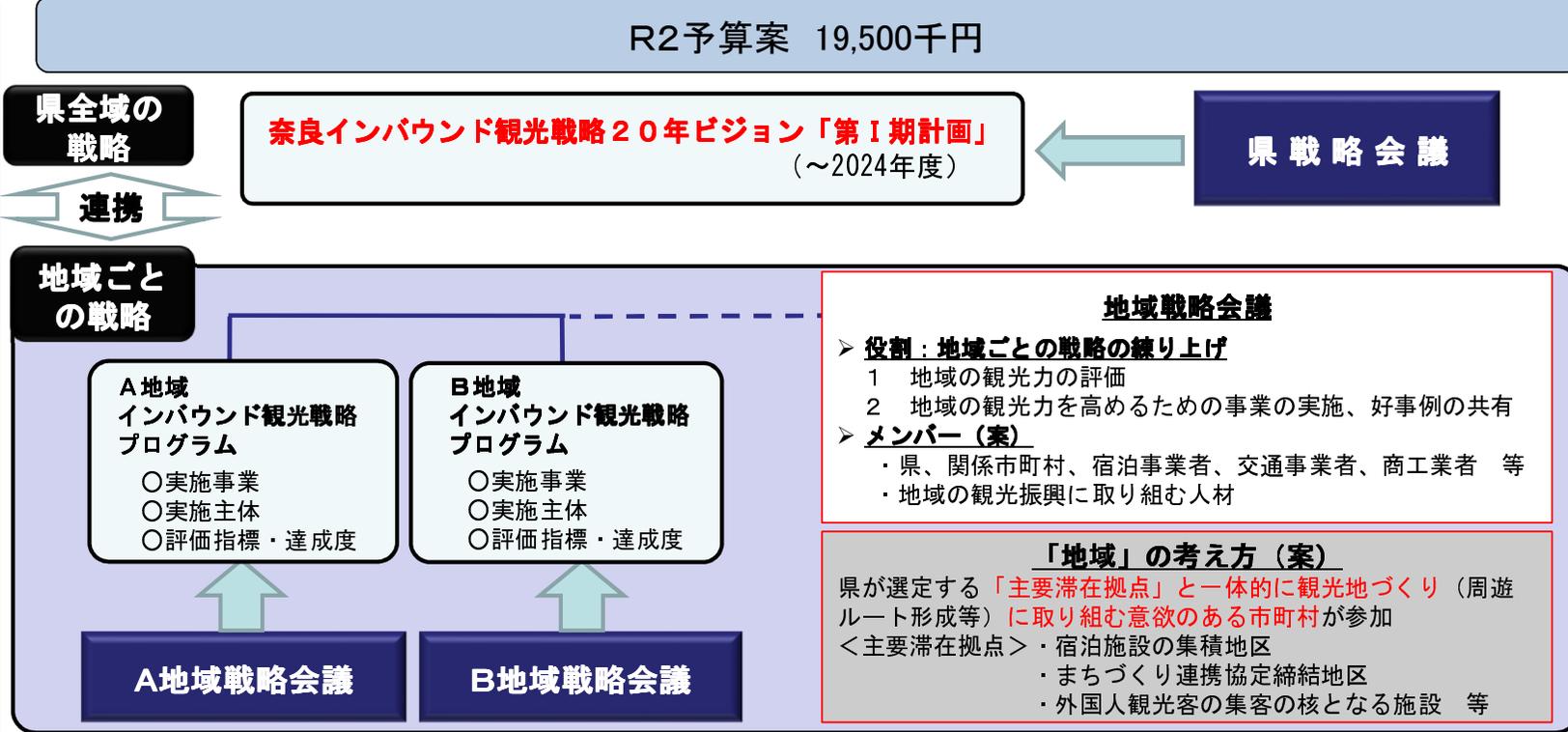
- 観光地奈良で7つのAの実現
- 対外プロモーションの強化
- 国際交流等の推進
- 観光振興の土台づくり

○「主要滞在拠点」と一体的に観光地づくりに取り組む市町村が参加

○地域の観光素材を評価し、観光魅力に高める地域ごとの戦略を練り上げる

○県戦略会議の実行、地域戦略の検討支援(3百万円)  
○外国人旅行者県内周遊状況調査(15百万円)  
○インバウンド観光人材の確保・育成のためのセミナー開催(2百万円)

令和2年度予算案 20百万円



取組① ビジョンの策定と実行に向けた取組を推進(3,000千円)

- インバウンド観光推進に向けた県戦略会議の開催(専門家への意見聴取)
- 観光戦略20年ビジョンと連携した地域ごとの戦略の検討支援・勉強会(意見交換、優良事例の紹介)

取組② 外国人旅行者の周遊状況調査(15,000千円)

- 外国人旅行者の県外からの流入経路、県内市町村間の流動経路及び移動手段等を調査

取組③ インバウンド観光人材確保・育成(1,500千円)

- 大学や企業と連携し、インバウンドに対応できる人材の確保・育成を目的としたセミナーを開催

「地域ごとの戦略」策定・戦略に基づく取組を推進

<問い合わせ先>  
観光局  
インバウンド・宿泊戦略室 吉岡室長補佐(内線2588)

### Ⅲ 愉しむ「都」をつくる

～県民が安心して快適に暮らし続けられる奈良をつくる～

# Ⅲ 愉しむ「都」をつくる 6 「安全安心な地域」づくり

## (36) 大規模広域防災拠点の整備

これまでは

東日本大震災の時、内陸の山形空港（滑走路2,000m）が大活躍したことから、五條市に大規模防災拠点(2,000m滑走路付)を設置する検討を始めました。

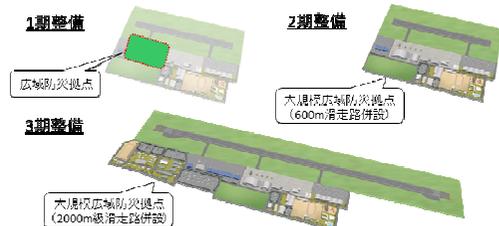
- 防災拠点の整地のため、リニア中央新幹線などの排出土砂を利用
- 消防学校を併設
- 防災拠点を通り、京奈和自動車道と国道168号を結ぶ高規格の道路整備を検討



大規模広域防災拠点の整備イメージ

もっと良くするために

南海トラフ巨大地震に備え、防災拠点を段階的に整備します。(189百万円) [債務負担行為 75百万円]



京奈和自動車道五條西ICから防災拠点を經由して国道168号にアクセスする道路の予備設計実施 (24百万円)

陸上自衛隊駐屯地の誘致を継続 (6百万円)

令和2年度予算案 219百万円 [債務負担行為 75百万円]

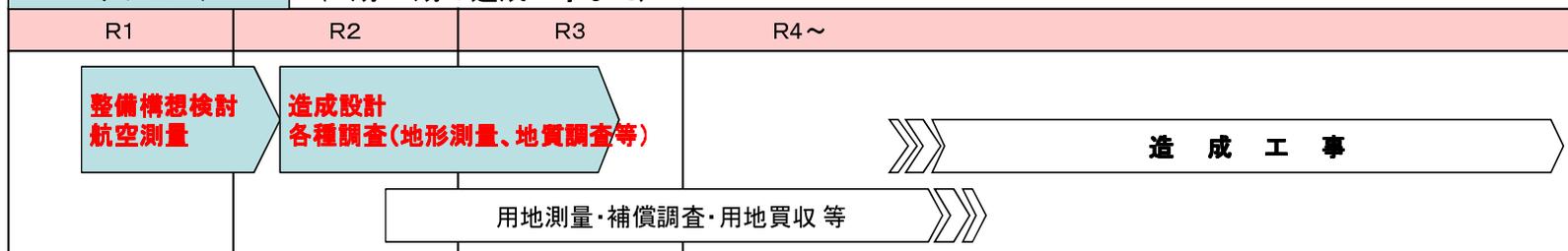
R2予算案 219,174千円 [債務負担行為 75,075千円]

### ① 大規模広域防災拠点の整備 (188,999千円 R3債務負担行為 75,075千円)

- 南海トラフ巨大地震の切迫性が指摘される中、防災拠点としての効果を早期に発揮できるよう、**段階的に整備**
- 大規模広域防災拠点の整備を推進するため、県土マネジメント部に「大規模広域防災拠点整備課」を設置

	1期	2期	3期
ステージ	広域防災拠点	600m滑走路を有する大規模広域防災拠点	2000m級滑走路を有する大規模広域防災拠点
機能	一定の機能 (応援要員受入機能、空輸機能など)	複数の回転翼機の同時稼働が可能	回転翼機に加え、大量の物資人員を輸送可能な固定翼機の活用が可能
イメージ	○ 場内土工事により早期に整備可能な平場を確保  広域防災拠点	○ 1期整備を中心に造成範囲を拡大し、順次防災機能を充実  大規模広域防災拠点 (600m滑走路併設)	○ 2期整備を中心に造成範囲を拡大し、2000m級滑走路を併設  大規模広域防災拠点 (2000m級滑走路併設)

スケジュール (1期・2期の造成工事まで)



### ② 大規模広域防災拠点アクセス道路の調査 (24,000千円)

- 京奈和自動車道五條西ICから防災拠点を經由して国道168号にアクセスする道路の予備設計を実施

### ③ 陸上自衛隊駐屯地の誘致 (6,175千円)

- 陸上自衛隊駐屯地誘致の早期実現に向けた取組を実施  
(誘致活動、駐屯地見学バスツアー、防災講演会、自衛隊インターンシップ、**新 自衛隊フェア**)

<問い合わせ先>

- ①③ 知事公室防災統括室 大内主幹 (内線2285)
- ② 県土マネジメント部道路建設課 藤井課長補佐 (内線4141)

# Ⅲ 愉しむ「都」をつくる 6 「安全安心な地域」づくり (37) 消防学校教育の充実、県内消防組織への支援

これまでは

全国に先駆けた全県的消防広域化を実現し、全国的にも注目されました。

広域化によるコスト削減効果が約39億円ありましたが、組織・人事がバランスの強化、令和3年度の財務統合に向けた市町村交付金の負担方法の整備等、財務体制の整備が必要。

広域消防組合		奈良市消防局	
消防署数	18消防署、20分署・出張所	消防署数	5消防署、6分署
職員数	1,290名	職員数	374名
保有車両台数	260台	保有車両台数	90台
構成市町村	37市町村	構成市町村	1市
管轄人口	約90万人 (H30.4.1現在)	管轄人口	約36万人 (H30.4.1現在)

生駒市消防局	
消防署数	1消防署、2分署
職員数	142名
保有車両台数	32台
構成市町村	1市
管轄人口	約12万人 (H30.4.1現在)

もっと良くするために

消防学校教育を充実し、高度で専門的な災害対応能力と知識を備えた消防職員・団員を育成します。

- ・県内消防本部派遣教官の person 費負担 (58百万円)
- ・訓練使用資機材の整備(2百万円)
- ・消防学校の改修等(81百万円)

広域消防組合や市町村が広域的に実施する消防活動のための消防救急無線施設及び消防指令センターの一元化整備を支援(72百万円)

広域消防組合のガバナンスの強化に尽力します。

令和2年度予算案 213百万円

R2予算案 213,118千円

## 消防学校教育の充実

○消防吏員に採用された職員の初任教育や、現任職員への専門教育をはじめとし、高度で専門的な災害対応能力と知識を備えた消防職員・団員を育成する消防学校の運営、教育訓練の環境整備

- ・県内消防本部派遣教官の person 費負担(58,452千円)
- ・訓練使用資機材の整備(1,657千円)
- ・教育訓練費等(10,909千円)

○消防学校の環境整備(44,504千円)  
更衣室屋根改修、調理室厨房の排水設備改修等

○消防学校の耐震応急対策(25,295千円)  
本館の耐震工事、屋内訓練場の耐震設計

## 県内消防組織への支援

○広域消防組合や市町村が広域的に実施する消防活動のための消防救急無線施設及び消防指令センターの一元化整備を支援

(72,301千円)

補助額：一元化整備にかかる市町村等の公債費のうち地方交付税算入額を差し引いた額の1/2 ※補助期間：平成25年度～令和8年度

訓練の様子



消防学校



消防指令センター



<問い合わせ先>

知事公室 消防救急課 布元課長補佐(内線2273)

# Ⅲ 愉しむ「都」をつくる 6 「安全安心な地域」づくり

## (38) 大和川直轄遊水地と流域内水遊水地の整備

### これまでは

各地で洪水被害が頻繁に発生しており、奈良県も洪水対策が必要です。

○国は大和川の洪水を一時的に貯留する100万<sup>3</sup>mの遊水地を整備します。(用地の協力が必要です。)



○大和川流域における総合治水の推進に関する条例を制定しました。

○「奈良県平成緊急内水対策事業」を推進します。

・平成30年5月にキックオフし、適地候補地の選定を終え、令和元年10月には田原本町で最初の内水対策工事の起工式を行いました。

R2予算案 4,453,456千円 [債務負担行為 490,000千円]、R元・2月補正予算案 2,150,550千円

### 1. 直轄遊水地等の整備 (R2予算案 707,396千円、R元・2月補正予算案 270,000千円)

○ 大和川流域における遊水地整備等

<R2実施箇所(予定)>

・大和川遊水地(窪田地区、保田地区)、大和川・佐保川改修(藤井地区・長安寺地区)

### 2. 平成緊急内水対策の推進 (R2予算案 197,900千円)

○ 内水による床上・床下浸水被害を解消するため、内水対策に取り組む市町に対して助成

・事業主体は市町

・国費を除いた分を県と市町で折半

(参考)10年に一度の大雨に対する事業費 国費41億円、県・市町それぞれ36億円

<R2助成箇所(R元施工分(予定))>

・田原本町(阪手南地区)、広陵町(三吉地区、中地区)、河合町(川合地区)、王寺町(葛下3丁目地区)、御所市(今住地区)

### 3. 河道掘削、堤防補強等 (R2予算案 3,548,160千円、R3債務負担行為 490,000千円、R元・2月補正予算案 1,880,550千円)

### もっと良くするために

大和川の洪水対策を進めます。100年に1度の大雨(最近頻繁に起こっています)にも耐えられることを目標にグレードアップ対策を検討します。

○大和川流域の直轄遊水地を整備し(窪田地区、保田地区)、大和川、佐保川の改修にも取りかかります。(藤井地区、長安寺地区) (707百万円、R元・2月補正 270百万円)



○内水による床上・床下浸水被害解消に取り組む市町に助成します。(田原本町、広陵町、河合町、王寺町、御所市) (198百万円)

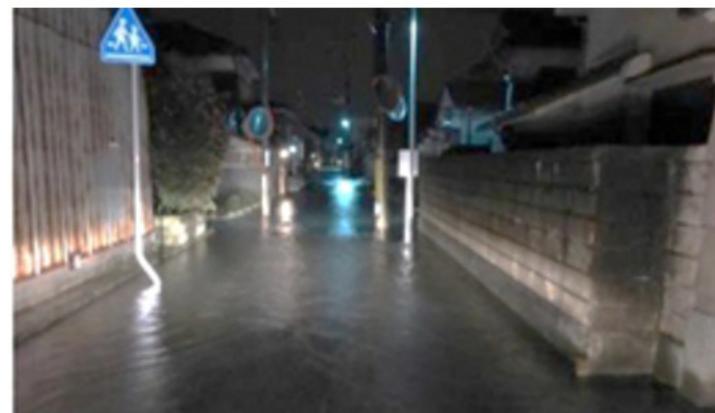
・事業主体は市町。国費を除いた分を県と市町で折半。(参考)10年に一度の大雨に対する事業費 国費41億円、県・市町それぞれ36億円

○河道掘削、堤防補強を実施します。(3,548百万円、[債務負担行為490百万円]、R元・2月補正 1,881百万円)

令和2年度予算案 4,453百万円[債務負担行為490百万円]  
令和元年度2月補正予算案 2,151百万円



直轄遊水地の整備



平成29年台風第21号の際の内水被害状況

<問い合わせ先>

県土マネジメント部 河川課 往西主幹(内線4173)、牧田主幹(内線4171)